

# おれんじニュース

No291

2014年6月号



4月20日、由布岳にのぼりました。雨模様だったけど山桜とサクラソウが綺麗でした。

今月号の記事	由布岳・吾妻岳・倉木山・蒜山高原
--------	------------------

運営委員会の日時が4月から変更 第二火曜日午後13:30～です。

★集会・委員会のお知らせ★ 山行の一步は集会参加から				
	2014年6月	2014年7月	時間	場所
運営委員会	10日(火)	8日(火)	13:30~16:00	西諫早公民館
全体集会	25日(水)	23日(水)	19:00~21:30	西諫早公民館





雨の由布岳ランランラン



ヤマエンゴサク



サクラソウ



エヒメアヤメ

吾妻岳にのぼりました



吾妻観音までいきました。

林さん、頑張る。倒木をくぐったりまたいだり。





# 2014/6月の山行



	自然保護部	山行部	技術研修部	ひまわり山行部
月・日	6/1(日)	6/8(日)	6/15(日)	6/20(金)
山名(行事)	金比羅山(247m)	英彦山系 県境尾根周回ルート	多良岳・帆柱岳	九千部岳(1062m)
地 図	諫早南部	英彦山	多良岳	雲仙・島原・愛野
集合場所	西諫早駅 9:00	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	西諫早駅 8:00	西諫早駅 9:00
難易度	初級	初級&中級	初級&中級	初級
帰着時間	16:00	19:00	17:00	16:00
歩行時間	2.5h	3.5or4.5h	3.5h	2.5h
交通手段	マイカー	マイクロバス	マイカー	マイカー
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温泉	無し	しゃくなげの湯	有り	有り
参加費	1000円	5,000円	1,000円	1000円
申込期限	随時	定員になり次第	随時	随時
集 約	中里	高森	佐原	金丸
備 考	奥の院まで綺麗にして、クリーンハイクにつとめましょう。	英彦山のシャクナゲを愛でに行きます。	多良岳は知る人ぞ知るシャクナゲの穴場です。花のトンネルに出会うかもです。	きっと、ヤマボウシが見られる頃でしょう。
感想文提出	6/10	6/18	6/25	6/30

技術研修部より (申込みは 川原さんまで 当日参加OK)

セルフレスキュー 5月31日(土) 西諫早駅 9:30  
6月28日(土) 西諫早駅 9:30

事故に対処する技術を身に付けます。  
レスキューの心得があれば、事故予知能力が身に着き  
事故を未然に防ぐことができます。



ロッククライミング雲仙牛首 7月4日(金) 西諫早駅 9:00 (雨の場合は沢に変更)  
(初級)

沢登り 7月11日(金) 西諫早駅 8:30 (小川内 左俣)  
(初級)

## 2014/7月の山行



部	技術研修部	山行部	ひまわり山行部	自然保護部
月・日	7/6(日)	7/19(土)	7/25(金)	7/27(日)
山名(行事)	蛤岳(862.8m)	雲仙周回左周り	岩屋山(475m)	松尾岳・行仙岳 船石岳
地 図	中原	雲仙・島原	長崎西北部	長崎東北部
集 合 場 所	西諫早駅 7:00	西諫早駅 7:00	J R 諫早駅 8:20 J R 西諫早駅 8:24	J R 西諫早駅 8:00
難 易 度	初級	初級	初級	初級
帰 着 時 間	17:00	17:00	16:30	16:30
歩 行 時 間	3h、	3.5h	3.5h	3h
交 通 手 段	マイカー	マイカー	公共交通機関	マイカー
宿 泊 施 設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温 泉	無し	有り	無し	東長崎銭湯
参 加 費	2,000 円	1,000 円	交通費のみ	1,000 円
申 込 期 限	定員になり次第	定員になり次第	随時	随時
集 約	佐原	高森	金丸	中里
備 考	蛤水道に沿って歩きます。涼しい登山です。	ヤマアジサイの美しい頃でしょう。	長崎市民の憩いの広場です。	地元の山を歩きましょう
感想文提出	7/16	7/29	8/5	8/7



スケッチ(由布岳の山桜) 間ノ瀬氏



4/20 由布岳に雉が桜草をみにきてた。

# 2014年4月/5月の山行報告



4月20日（日）

## 由布岳

（参加者）川原、中里、野中、松岡、鎗水、間ノ瀬、林(和)、山下(ち)、國分、中野、久保(元)、久保(陽)、田村  
(13名)

（行程）西諫早駅前 6:30—諫早 IC—金立—太刀洗 SA(國分さん合流)—湯布院 IC—由布岳正面登山口 9:30—9:45 出発—合野越—またえ 12:00(昼食)—12:30 下山—正面登山口 14:30—サクラソウ見学—ほのぼの温泉—湯布院 IC—諫早 IC—西諫早駅 19:30

（感想）今日の天気では期待していた由布岳登山は中止と思い 6 時 30 分西諫早を出発する。マイクロバスの中で、今、四国巡礼にはまっている中里さんの話が印象に残った。

「1200 年前、弘法大師が開山した八十八カ所巡りは、四国の経済発展に一役かっている。」と話を聞き、今の経済政策は目先の事しか考えていないと思った。いい話を聞き感銘を受けた。

9 時 45 分頃、由布岳正面登山口から霧と雨の中、登山開始した。途中で広い草原の登山道にエヒメアヤメが一つ可憐に咲いていた。

合野越で一休みして、今日の悪天候では東峰への登頂は無理と判断されまたえまでの登山となった。樹林帯、ジグザグのヘアピンカーブで足にあまり負担がかからない。平均的に傾度のゆるやかな登山道を登る。12 時頃またえに到着する。強風、霧、雨、の中で冷えきった身体で昼食を取る。悪天候の中では判断を誤ると死につながると思う。



オレンジにはすばらしいリーダーと仲間がいると感じた。下山中に団体や夫婦、カップルにであった。いかに、由布岳が人気の山かが分った。



今日のもう一つの目的、サクラソウの自生地に向かう。八分咲きだった。大草原の中ひっそりと可憐に咲いていた。無我夢中でシャッターを押した。帰宅してからのプリントが楽しみである。

温泉に浸かり、車中で恒例の小宴会。19 時 52 分頃西諫早到着。また機会があったら由布岳の登山計画をして欲しいと思った。悪天候でも仲間と楽しい時間だった。（野中 記）

4月25日(金)

## 吾妻岳(870m)

(参加者) 小山、川原、松岡、佐藤、林(孝)、下釜、山下(ち)、山下(文)、田村、松田、林(和)、川内、船津、山口、吉川 (15名)

(行程) 諫早駅裏ロータリー8:45-西諫早駅9:00-国見百花台(休憩)9:30-田代原牧場10:00-登山開始-吾妻岳頂上11:45-吾妻観音

①一般コース 頂上に戻って昼食-下山-温泉へ-諫早

②縦走コース 吾妻観音12:30-鉢巻山13:36-あずまの里牧場(川原さんの車と会う)-諫早へ14:50

(感想) 4月25日、晴天。周囲の山々がみるみる新緑に覆われていくそんな一日、雲仙吾妻岳に登りました。20歳の夏、西穂高に登り山小屋の不快さに山に登る人の気が知れないと思って以来、十年・・・しかしながら野に咲く花は好きですし、緑の中を歩くのも好きなわけで。そういうものに出会いたければ、やはり歩き、少しは登ってみるしかありません。

オレンジに入会し、今回が三度目の参加。

吾妻岳は登山口こそ穏やかでしたがやがてジグザグに足場の悪い上りが続きました。でもその分気を張ってゆっくり進むのできつuitと感ずることはありませんでした。途中、自然木そのままで作った鳥居があったり馬頭観音が祀ってあったり山には何かしらそんな祠のようなものがあるもので石ころにも神さまが宿ると考えてきた日本ならではの静かな風景が走り、まさに日本の春の風景がありました。

帰りは更に注意を払いながらの下山でしたが、途中10センチ四方の石を落してしまい「そういう時は大声で落石!と叫ぶように」と注意を受けました。勝手に「これくらいは」と思い込んではいけないのだと反省しました。下りという事はこの登山もそろそろ終わりという事。木漏れ日がつくる陰影を眺めながら下りきったところ、視界がパッと広がり「みなさん御無事で何より」と九千部岳が迎えてくれました。

西の果てにある雲仙は観光客も登山客も多くはない。しかし見る場所によって様々な姿をみせてくれる。めずらしい野の花もよーく見るとたくさん咲いている。40年近く留守にしていたうちの芝生は思いの外、青々と美しかった事に気づかされた山の日でした。(山下文代 記)

(感想2) 吾妻岳～鉢巻山～あずまの里牧場 縦走

「こっそりの秘め事は蜜の味《 A TASTE OF HONEY 》なのか?」

4月25日は雲仙の吾妻岳から鉢巻山への縦走に挑戦しました。





出発が一寸遅れて 9 時 20 分位に国見の百花台で休憩をとりました。そこには手作りのなかなかおいしそうな饅頭が多種並んでいて選択に悩んだ末、結局 70 円の味噌饅頭と 100 円のじゃが饅頭を 1 ヶづつ（当然、自分一人で食べるつもりで）買って出来るだけ人目につきにくい入口の横あたりで、まず、70 円の味噌饅頭からパクッとといった所で「OH MY GOD！」神の無慈悲か Y 女史に見つかってしまい「おいしそうなの食べてるね。こういう物は分かち合わないと、山をやる人には、みんなで分かち合う精神が大事なんだから。」と 100 円の高い方のジャガ饅頭をパクッと食べられてしまいました。どうせなら思い切って自分も 100 円の高い方から食べてればよかったのには思ったのですが後の祭り。登山口に着くまで女々しく（最近、若い男の子がカラオケで歌う曲 NO,1 が「女々しくて女々しくて」だそうです。受験に失敗したり、女の子に振られたり、上司にしかられたりした際に口ずさむのでしょうか。日本の男子は大丈夫なんでしょうか？）我が身の♪運の悪さを悔やんだりして♪（小椋桂作詞作曲・愛燦々より引用）いました。

しかし山を登り出すと一転、春満開、まったりの春の海にどっぷりつかった様でいろんな春の山野草、更に山頂近くでは早くもミツバツツジが咲きそろいだして春の山を心行くまで満喫する事ができました。山頂まで登り着いた後は山下さんをリーダーに下釜さん、自分という凸凹トリオで鉢巻山を目指しました。

途中、ルートが不確かな個所がいくつかあって山下さんが下釜さんに相談してその都度「本当に下釜さんに同行を頼んでよかったよかった。」と何度も繰り返されるので技研部迷(?)副部長としては、一寸、口惜しく思いました。

でも、途中で最近憶えたてバリバリの「ハル lindou」にも再会できて「ヨシ、自分も山野草にも強くなって拭いきれない「ワタボウシ、発言」の汚名を少しでも挽回しようと前向き志向になる事が出来ました。



雲仙の山々もなかなか素敵だなと改めて実感した 1 日でした。 (松岡 記)

## 4 月 27 日

### 倉木山 (1160m)

<参加者> 1 班 川原(PL) 林か(PSL) 山口 森 下釜(会計) 田中(感想)  
2 班 小山 (PL) 田中ひ 佐原 柳迫 (会計) 中須賀 (CL) (11 名)

<行 程> 諫早駅 06:10~西諫早駅 06:20~雨乞牧場登山口駐車場 09:10~倉木山登山口  
09:20~分岐 9:40~頂上 10:55~倉木山登山口 11:50 (昼食) ~由布岳登山  
口 12:50~温泉 (七彩の湯) 13:30~諫早着 19:00

<感 想> 天気予報では下り坂とあり心配していたが、雨降ることなく気持ちの良い山行日和となった。雨乞い牧場登山口から倉木山登山口へと歩く。登山口より 10 分程登ると分岐に

着く。左は急坂コース 右は山腹廻りコースと標識がある。往を急坂、復を山腹の計画だったので左に進む。梢だけの樹林の中を緩やかに登ると第一ピーク。それから少し下って本格的上



りが始まるが、急登の連続に息を切らす。やっと傾斜が緩やかになったら次は背丈までの笹漕ぎ。さらに登ると笹は腰ほどになり、馬酔木が右に左に、足元にキスミレと楽しませてくれる。倉木山の山頂は展望がよい。由布岳、鶴見岳、雨乞い岳などが見える。時計を見ると 11 時前。まだ昼食には早すぎるので下山することにした。山腹コースは歩きやすく、時折展望を楽しみながらの下りだった。途中広いところでお弁当を言いながら登山口での昼食になった。思いの外時間が早すぎたので、由布岳登山口にエヒメアヤメとサクラソウを見に行った。先週は天候が悪く花を楽しめなかったが、今回はゆっくり鑑賞出来てよかった。

「七彩の湯」で汗？を流し帰路に着く。倉木山は「野の花の山」と言われ、色々な花が楽しめると本にかいてあったが、次回はそんな花々に出会える時期に登ってみたい。

(田中し 記)

## 5月3日(土)・4日(日)

### 蒜山高原 (上蒜山 1199m、中蒜山 1123m、下蒜山 1100m)

(参加者)川原、佐原、中須賀、野中、間ノ瀬、小山、松岡、山下(ち)、下釜、山口、白石、  
國分、岩永(の)、山本、外山(あしび) 岩永清子(一般) (16名)

ゆっくり組 (犬挟峠～下蒜山～塩釜冷泉)

(行程) 犬挟峠登山口発 8:55—雲居平着 9:40—下蒜山頂上 11:05—塩釜冷泉分岐 13:25—塩釜冷泉着 15:20

(感想) 快晴の中、ゆっくり班の 5 名は犬挟峠登山口から歩き始めた。当初バスで留守の予定だった K 氏も一緒に登る事になった。ここの登山口にある駐車スペースも車がいっぱいだった。樹林帯の中の道を進み、道は階段となり急登が始まる。その途中、I 女史が下山することになり、パーティは 4 名となった。樹林帯を抜けて笹原の中の道となり雲居平に到着。



ところが、その近くに咲いているであろうと期待していたカタクリの花が一輪も見えず春の訪れはまだ遠いのだろうか、ガッカリしながら進むと 7 合目あたりから、ある、ある、あるいっぱい咲いていた。十分に目を楽しませてもらいながら、下蒜山山頂に向けての急登をジグザグに登り詰める。





山頂からの眺めは更に素晴らしく、中蒜山と上蒜山が目前にあり、その奥にまだまだ雪を残した大山があった。中蒜山と上蒜山も谷筋に雪をのこしていた。下蒜山から中蒜山へ向かう登山道脇はカタクリの花とイカリソウとイワカガミの花の競演でカメラにどの花を納めようもない位の咲き誇りようだった。下蒜山と中蒜山の鞍部をすぎ中蒜山へ向けて登り返している最中に突然トランシーバーのコール音が響き、先を歩くK氏より西側の空に「彩雲」が

でているとの一報だった。

見ると虹色に染まり、光っている様できれいだった。

ルートは中蒜山山頂手前から塩釜冷泉への分岐点より下る。

しばらくは階段の急降下状態を下る。こちらからの登りも大変だろうと思わされた。道はだんだんゆるやかな樹林帯の中の道となり木の根に足を取られないようにひたすら下る。やっと塩釜冷泉に到着。先行していたメンバーと合流となった。無事到着。

行程は一本道で迷う程の分岐もなくアップダウンはあるものの比較的歩き易い道だった。

お疲れ様でした。

中蒜山に向かって歩いている時「彩雲」(環水平アーク)と「日暈」をみました。

**環水平アーク** (かんすいへいアーク、英語: circumhorizon arc、circumhorizontal arc) とは、大気中の氷粒に、太陽光が屈折し、ほぼ水平な虹が見える光学現象である。虹などと同じ大気光象の一種で、**水平弧**、**水平環**とも呼ばれる。日本国内では年に数十回観測される。上空の氷の結晶の方向がほぼそろったときに、この結晶で屈折した太陽光により見える現象で、一般の虹が太陽とは反対の方向に見えるのに対し、環水平アークは太陽と同じ方向に、ほぼ水平に現れる。ただし、低空に雲があると見えない。(ウィキペディアより)

「日暈」とは

巻層雲は白いベール状雲でうす雲とよばれている。この雲が出ると太陽や月の周りに「暈」と呼ばれる輪が現れる事があり、天候の悪化する前兆といわれるがあまりあてにならない。でも、この巻層雲が時間とともに高層雲に変わった時などは天気が悪くなる事が多い。

(國分 記)

(感想文 2)

「高原の爽やかな春風と、色とりどりの花々と、自分勝手ミスコン」

5月の3, 4日は蒜山を楽しみました。岡山と鳥取の県境ですすがに、行き着くだけでたっぷりの時間がかかりました。

宿になった津黒荘はこ洒落た宿舎で到着後すぐ風呂となったのですが、風呂場に行く途中、自分の前を浴衣姿の女性3人が歩いていて、年長の多



分お母さんであろう人が 50 代なかば、次が 20, 2, 3 歳位の長女(?)更に一番若い人が高 2 か高 3 位の次女(?)という構成で階段を上がる際くるぶしあたりがチラッと見えて目を楽しませてくれました。今考えてみれば浴衣も淡いピンク色系で可愛い柄だったので印象が強かったのかなとも思うのですが。で、すぐ後からバタバタと禿頭の 50 代の男性が一行に追いついて「ああ旦那もいたのか」と一寸がっかり。

等々あって、翌日は早朝より、上、中、下蒜山の 3 座を縦走する事になりました。



山は本当に素晴らしかったですね。長いバスの乗車時間と自分にとっては高額な経費を使っても十二分、モトは取れたと思います。花もカタクリを筆頭にショウジョウバカマ、イカリソウ、イワカガミ等々多彩で更に普段オレンジの綺麗所を見つけているのでどうという事はないのですが、もう少し若い方々も沢山沢山いらっしやって・・・自分は普段からすれ違う女性を見て瞬時にこれは何点程度と査定する

癖があるもので(カミさんからは「又、ジロジロ見て、本当にエロジジィやね」と再々注意は受けるのですが)逆に意地になって振り返って「あっ、後姿もいいので 85 点！」なんてやっているの、今回の山行は結構忙しかったです。さすがにGWで名もある山なので人数も半端でなく多く、90 点(普段なかなかいないのですが)級にお目にかかってよかったです。(注)点数の基準は全く自分勝手なもので公的な規範は有りません。すいません。横道にそれてしまいましたが山も非常に



すばらしかったです。谷間のあちこちに雪渓が残っていて遠目には濃緑の樹木の間を激流かもしくは滝が流れ落ちているかの様に見えました。又、一方大山も迫力満点でパラマウントムービーの巻頭の多分ロッキー山脈の画像を思わず思い浮かべました。諫早帰着は深夜 2 時位となりましたが山登りの心地良い疲れと飲み疲れで爆睡、満足しました。(松岡 記)



蒜山津黒荘の  
早朝の散歩  
シャクナゲと  
桜が同時に咲  
いていた。



上蒜山に向かう気持ちよい尾根道



中蒜山の山肌の雪渓



↓ ショウジョウバカマ

↑ エンレイソウ

↓ キクザキイチゲ







5月4日12時51分  
 中蒜山から下蒜山に  
 向かってる時、西の空  
 に環水平アークを観  
 察できた。同時に日暈  
 もみることができた。  
 解説 9 ページ  
 撮影 野中氏



カタクリ



イカリソウ

おれんじニュースNo291	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡正廣
編集責任者 及び 原稿送付先	山下ちず子
発行年月日	2014.5.21
財政担当	
郵便振替口座	
ホームページ	<a href="http://orangehikingclub.com/">http://orangehikingclub.com/</a>

梅雨入りが近づいてき  
 ましたがその前に爽や  
 かな景色と可憐な草花  
 満載のニュースをお届  
 けいたします。今月は  
 中須賀氏、野中氏、田  
 村さん、下釜さんに写  
 真を提供していただき  
 ました。ありがとうございました。(山下ち)